

責任者	総合政策研究科委員長	作成部局	総合政策研究科
-----	------------	------	---------

### 2021年度に向けた教育研究目標

#### 【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

多様な分野の知識に基づく高度な政策分析力の獲得

(狙い内容)

多様な分野の知識に基づく文献、資料の読解力を高めると同時に、データ分析能力を高める。そして、各種の政策課題において必要な情報を抽出するとともに、将来を予測し、さらにその不確実性をも評価したうえでの確かな政策判断を行うための能力を形成する。

#### 1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

新カリキュラムを履修した修了生全員が、それぞれ必要とする専門的な知識と政策分析力を獲得している。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

#### 2. 達成度評価

評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム改訂の有無</li> <li>課題研究「リサーチ・プロジェクト」の履修・運営方法の変更、適切な科目名への改称</li> </ul>	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	

#### 3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	C	A	A	A	A	A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入った	実績 <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 行動計画①②がともにBに達した						

【2016年度の進捗状況について】 ←

カリキュラム改訂案および課題研究「リサーチ・プロジェクト」の履修・運営方法変更案がともに2016年度第4回研究科委員会(7/20)で承認された。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→ <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由:	
②今後必要な取組み:	

#### <評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- 取組が順調に進捗していることが窺えます。めざす姿(修了生全員が専門的な知識と政策分析力を獲得)が達成されるよう引き続き精力的な取組みが展開されることを期待します。(B)
- 2017年度以降に、学生が修了時に必要とされている専門的な知識や政策分析力が身につけているかどうかの成果を測るための指標が設定されることが望まれます。(F)

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)  
実務上の専門的技術の獲得

(狙い内容)  
総合政策研究科は、高度専門職業人の養成のためのプログラムを用意する。そのために必須となる各専門分野に関して、十分なレベルの知識と技術を提供し、卒業生が実社会で即活躍ができるような教育を実施する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

「国連・外交コース」および「建築士受験資格大学院実務経験プログラム」の修了生が、実社会の国際分野、建築分野において即活躍できる

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	・「国連・外交コース」履修者数 ・「建築士受験資格大学院実務経験プログラム」履修者数  <変更時記入欄>	評価尺度	A：行動計画①②がともにAに達したレベル B：行動計画①②がともにBに達したレベル C：行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D：行動計画の未着手  <変更時記入欄>	変更有無  (有)無
			C：行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	C	C	C	B	B	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 行動計画①は未着手		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 行動計画①も着手した					

【2016年度の進捗状況について】 ←  
2017年度から開講予定の「国連・外交コース」については募集を開始し、建築士受験資格大学院実務経験プログラムについては累計履修者が6名となった。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・「国連・外交コース」を契機として、実社会の国際分野で活躍する修了生が多く輩出されることを期待します。(B)
- ・建築士受験資格大学院実務経験プログラムの履修者数は順調に推移しています。(C)
- ・概ね予定通り進捗している。(E)
- ・国連・外交コース等の履修者数のみならず、実務上の専門的技術の獲得状況を把握するための指標が設定されることが望まれます。(F)
- ・順調に推移しており、評価できます。(G)
- ・建築士受験資格大学院実務経験プログラムの履修者数が順調に進展しています。引き続き進展が期待されます。(I)

**【A票：教育研究目標3】**

(タイトル)  
高度なコミュニケーション能力の獲得

(狙い内容)  
語学力とともに、議論やディベート、プレゼンテーションの能力を向上させ、国際的な会議などで、自身の考えを的確かつ論理的に説明するための力を養う。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

修了生全員が、自身の考えを的確かつ論理的に説明でき、必要な外国語学力を獲得している

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	・「ドーナツ・アワー」への大学院生(前期課程・社会人除く)参加率 ・「リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェア」における大学院生の発表率	評価尺度	A：行動計画①②がともにAに達したレベル B：行動計画①②がともにBに達したレベル C：行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D：行動計画の未着手	変更有無  (有)無
	<変更時記入欄> ・「ドーナツ・アワー」への大学院生参加率(平均：社会人除く) ・「リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェア」における大学院生の発表率(平均)		<変更時記入欄> C：行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	B	B	A	A	A	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度：A~D <実績> C	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B						
	見込・実績・目標(値又は状況) <実績> 行動計画①はまだBに達していない		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 行動計画①②がともにBに達する						

【2016年度の進捗状況について】 ←

「ドーナツ・アワー」への大学院生参加率(平均：社会人除く)は50%を越えた(春学期中)。リサーチ・コンソーシアムにおける大学院生の発表率は87%であり、11月に実施されるリサーチ・フェアでの発表率は81%以上と見込まれる。

<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由：  
②今後必要な取組み：

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ドーナツアワーを達成度評価の評価指標とすることの適切性について検討が必要です。(A)
- ・ドーナツアワー、リサーチコンソーシアム/リサーチフェアの参加率、発表率が向上していることが窺えます。今後の更なる展開を期待しています。(B)
- ・ドーナツ・アワーの参加率、リサーチ・コンソーシアム/リサーチ・フェアの発表率は順調に推移しています。(C)
- ・概ね予定通り進捗している。(E)
- ・順調に推移しており、評価できます。(G)

**【A票:教育研究目標4】**

(タイトル)  
社会に資する研究等の実施

(狙い内容)  
国際化に伴う異なる価値観の衝突、人口問題、環境問題など現代社会が抱える諸問題に対して、教育および研究を通して社会に貢献することを狙う。そのために必要となる知識と技術を、教員と学生はともに研鑽し、研究活動をさらに活性化することでその成果を社会に還元する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

教員および大学院生は、活発に研究活動を行い、学術論文や著書の執筆、学会発表、作品や企画などを通してその研究成果を社会に還元する。また、教育研究の質を維持しつつ、社会の各分野で指導的役割を果たしうる人材を育成するため、大学院定員の適正化を行う。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	・科研費・新規採択件数および日本学術振興会特別研究員・新規採用者数 ・各種研究会(新任教員研究発表会など)の開催回数 ・大学院定員の適正化(定員削減)	評価尺度	A:行動計画①②がともにAに達したレベル B:行動計画①②がともにBに達したレベル C:行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D:行動計画の未着手	変更有無  (有)無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	C	C	B	B	A	A	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D <実績>	D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 行動計画の未着手		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 行動計画①②がともにC以上に達する					

**【2016年度の進捗状況について】**

科研費・新規採択件数および日本学術振興会特別研究員・新規採用者数は3件(名)、各種研究会(新任教員研究発表会など)の開催回数は6回を予定している。大学院定員の適正化(定員削減)に関しては、研究科で承認されている状態である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・ 科研費新規採択、各種研究会の開催等について取組みが進められていることが窺えます。今後の更なる展開に期待します。(B)
- ・ 科研費新規採択数と各種研究会数は順調に推移しています。(C)
- ・ 概ね予定通り進捗している。(E)